

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第723号（令和六年五月号）表紙

- ・夏の季語：「立夏」（初夏・時候）
- ・来月号（六月号）の兼題



<立夏>

二十四節気の一つ。陽暦の五月六日ごろ。暦のうえではこの日からが夏。実感からするといささか早い気もするが、もう夏に入りましたと定められると、目に入る景色も新しい夏の光を纏いはじめたように思える。

（子季語）夏立つ、夏に入る、夏来る、今朝の夏

季語「立夏」を詠った有名俳人の句に以下のようなものがあります。

- | | |
|------------------|--------|
| ・夏立ちし瓶につつじの花古き | 正岡子規 |
| ・彼岸より庭木動かし夏に入る | 高浜虚子 |
| ・汽罐車の煙鋭き夏は来ぬ | 山口誓子 |
| ・櫛の葉の旺んに降りて夏に入る | 阿部みどり女 |
| ・毒消し飲むやわが詩多産の夏来る | 中村草田男 |
| ・おそるべき君等の乳房夏来る | 西東三鬼 |
| ・原色にだんだん近く夏に入る | 稲畑汀子 |
| ・夏立つや残るは黄なる花一つ | 佐藤春夫 |

☆高得点者および高得点句

*前月の清記表に記載された13名の91句のなかから互選の結果、以下の同人が高得点者となりました。併せて高得点句も掲載します。

<高得点者(敬称略)>

20点 温州、14点 恵吾、穂心、12点 勝、11点 緑汀、要

<高得点句(5点以上)>

- ・無住寺に線香燻る彼岸かな／温州 7点
- ・長閑しや柵に寄り来る馬の貌／善富 6点
- ・懐かしき人載せて来よ涅槃西風／草炎 5点
- ・トランペットのけぞって吹く春の空／緑汀 . . . 5点
- ・合格子その一日をひた眠る／要 5点

<4点句(惜しい!もう少しで5点)>

- ・海沿ひのサイクルロード春の風／温州
- ・啓蟄や碁敵を待つ四畳半／碧亥
- ・海峡を渡る帆船風光る／温州
- ・水温む琵琶湖疏水の水路橋／恵吾
- ・春雷やピクトグラムの非常口／穂心

☆その他のトピックス

①「散歩道の自然～写真解説」：安本緑汀

先月号に続いて「どんぐり その二」を取り上げ解説されています。



○右上：ツブラジイ（円ら椎）

- ・暖地の山地に生え 25m以上になる常緑高木。春に淡黄色の長さ 10 c m程の雄花穂をつける。雌花はその上に小さくつけるが目立たない。実は翌年秋に成熟し、小さくて丸くつぶらなシイの名にふさわしい黒色の実を回り一面に落とす。生でも、炒っても美味しい。

椎茸の楳木としての利用が多い。建築材、枕木、薪炭材としての利用も。

○左上：タカサゴジイ（高砂椎）

- ・地中海のような温暖な土地で良く育つ常緑高木、中国原産種。

○右下：コナラ（小櫛）

- ・日当たりのよい日本の山地に普通に見られる落葉高木で大きいものは 30mにも達する。花は 4～5 月頃に咲き実は秋に熟す。どんぐりといえばコナラかクヌギ。

椎茸の楳木としての利用が多いが薪炭、公園・庭園樹としても利用されている。

○左下：クヌギ（櫛、櫟、橡、櫨）

- ・日本の山地に見られる高さ 15m位になる落葉高木。4～5 月頃に黄褐色の雄花序を垂らし、実は翌年の秋に熟す。2 c m大の大きい丸い実をつけ、椀型の穀斗に包まれる。カブトムシやクワガタが最も好む木であるとともに、子供たちに大変好まれる。子供の頃、クヌギの実でコマを作って遊んだ方も多いのでは。

椎茸の楳木、薪炭、公園樹などに利用される。

②「緑汀さんの『散歩道の自然』」：後藤碧亥

- ・(随想文全文を転載させていただきます)

今月と来月（四月号と五月号）の緑汀さんの「散歩道の自然」はどんぐりです。

今月はカシやシイですが私事の櫟の木の話を聞いて下さい。

平成二十四年、私の住む住宅地の直ぐ隣にあった小学校が、新入生の増加により一キロほど南へ新築移転をしました。

跡地は、全て地区の公園とグラウンドに再生をし、その際、地域住民へ、植栽の記念樹希望者を募りました。

一家族一本で3000円。木の種類は選択できませんでした。

結果、クヌギの木と聞いた時は一寸がっかりしました。

最初の五年くらいは何とも情けない、今にも枯れそうな弱弱しさでしたが、今では春から夏にかけて青々と茂り、花を付け、秋にはどんぐりの実をつけるようになりました。

そうなる、何とも愛しく、春の来るのが待ち遠しく、娘、孫、曾孫と代々語り継いでくれることを祈っています。

語り継げ吾が記念樹の櫟の芽 碧 亥

③近況・炉辺談話

- ・以下の方々より近況報告がありました。

山下勝様、北草炎様、後藤碧亥様、河本要様

④編集者 穂永穂心様より以下の報告を頂きました。

- 1) 三・三〇 夙川にて吟行をしました

・夙川の桜堤を散策された時の様子を写真および入りで紹介されています。併せて次の四句を詠まれています。

「水澄みし川面に春の陽の光」
「駆け出す児花と撮らむと母もまた」
「踏ん張って残す春場所土俵際」
「タンポポの張合ふほどにポポと咲き」

- － 2) 4月10日付け日経新聞「大学」欄掲載の
「和歌山大学、地域目線で企業と商品開発 (知の挑戦)」
を全文紹介して頂いています。

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の13名
- ・昭和38年(1963年)結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年(2022年)6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名(高商32名、高商教授1名、大学39名)

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋(大学17期)(俳号：穂心)
メールアドレス：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先；
 - ・山下 勝(大学14期・前編集者)(俳号：勝)
メールアドレス：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康(大学20期)(俳号：温州)
メールアドレス：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上

(文責：平林 温州)